

河川工作物アドバイザー会議の経過報告・今後の予定

1 平成28年度（2016年度）河川工作物アドバイザー会議の開催状況

(1) 平成28年6月23日（木） 「ルシャ川検討会」（開催場所：札幌市）

「主な議題」

- ① ルシャ川の取扱いについて
 - ・ルシャ川のダムについては主に水理模型実験の結果と改良の方向性について
 - ・道路と橋の取扱いの方向性について
- ② 第39回世界遺産決議に係わる保全状況報告の方向性について

(2) 平成28年8月22日（月）～23日（火） 第1回河川工作物アドバイザー会議
(場所斜里町)

本会議は22日午後よりルシャ川にて現地検討会を行う予定であったが、台風による荒天のため現地検討会を取りやめ両日とも室内会議とした。

「主な議題」

- ① ルシャ川の取扱いについて
- ② 第39回世界遺産決議に係わる保全状況報告について
- ③ 長期モニタリング結果の評価について
- ④ 岩尾別川流域における事業実施結果について（知床財団）

(3) 平成29年1月31日（火） 第2回河川工作物アドバイザー会議（場所：札幌市）

「主な議題」

- ① ルシャ川の応急対策について
- ② ルシャ川のシミュレーション結果について
- ③ ルシャ川河床路の実証試験計画について
- ④ 第39回世界遺産決議に係わる保全状況報告提出について
- ⑤ 第二次検討ダムについて
- ⑥ 本年度実施のオショロコマ長期モニタリング結果について

2 今年度の長期モニタリング結果について

長期モニタリング実施計画に基づき、以下の調査を実施した。

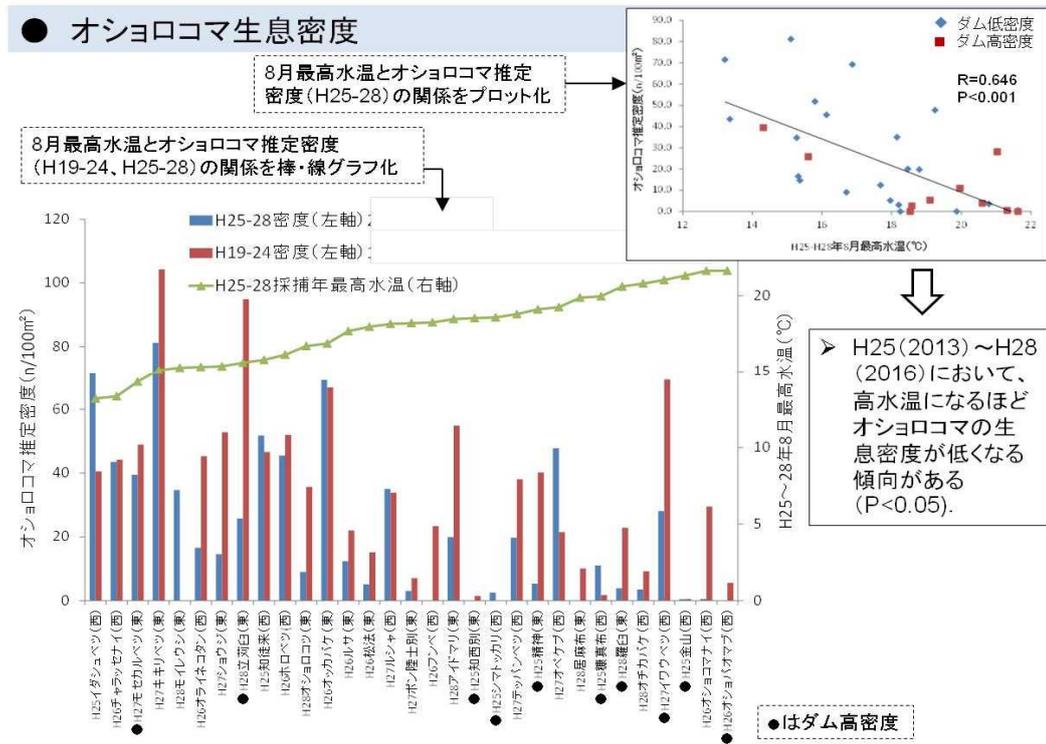
(1) 長期モニタリング

淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況に関するモニタリング調査では、7月から9月まで遺産隣接地域を含む37河川に水温測定ロガーを設置し、夏季の水温を計測するとともに7河川においてオショロコマ等の生息状況の調査を実施した。

これまでの調査結果と同様に、半島の西側河川が東側河川より水温が高い傾向にあり、ダ

ム高密度の河川が低密度の河川より水温が高い傾向にあった。

また、オショロコマの生息調査においては、高水温の河川ほどオショロコマの生息密度が低くなる傾向にあった。(下図参照)



3 第39回世界遺産委員会決議に係わる対応について

第39回世界遺産委員会決議に係わる保全状況報告については、平成28年度第1回河川工作物アドバイザー会議において議論し、その後メールで調整を行い海域WGの報告とあわせて環境省・林野庁・文化庁に案を提出、外務省を通じてユネスコ宛送付し11月25日付けで受理された。

4 第二次検討ダムについて

改良すればサケ科魚類の生息環境等の改善が図られる可能性のあるものの、改良に伴う防災機能等への影響が大きいため「現状維持」と評価した河川工作物(第2次検討ダム)については、先行河川として「オッカバケ川」の2基(林野庁)と「モセカルベル川」の1基(北海道)について、第2回河川工作物アドバイザー会議において具体的な改良案を示し、各委員のご意見を参考に改良計画を進めているところである。

5 次年度の会議開催予定

- ・第1回 河川工作物アドバイザー会議 平成29年(2017年)9月頃(斜里町、羅臼町)
現地検討会は斜里町又は羅臼町を予定
- ・第2回 河川工作物アドバイザー会議 平成30年(2018年)1月頃(札幌市)